

(福祉) 羽根小学校 5年

わたしにもできるボランティア

4月～3月(70時間)

1 ねらい

- ・障害者についての調べ学習やアイマスク体験などを通して、人にやさしい工夫を考えることができる。
- ・高齢者とのふれあいや、高齢者疑似体験を通して、相手を思いやる気持ちを持つことができる。
- ・福祉体験やボランティア活動をし、福祉を身近にとらえ、実行できることを考える。

2 実践の概要

5月	視聴覚障害者について調べよう。	<ul style="list-style-type: none">・福祉とは何かを考える。・図書やインターネットで障害者について調べる。・視覚障害者のための工夫を見つける。
6月	アイマスク体験をしよう。	<ul style="list-style-type: none">・目が見えないことってどんなことか、実際に体験してみる。・目の見えない人をどのように介助したらよいか、考える。
9月	長寿者訪問をしよう。	<ul style="list-style-type: none">・学区のお年寄りとはどんな交流をしたいか考える。・長寿者訪問の計画を立てる。・学区のお年寄りと交流し、楽しむ。
10月	長寿者の方へお礼の寄せ書きを贈ろう。	<ul style="list-style-type: none">・長寿者訪問でお世話になったお年寄りにお礼の寄せ書きを書き、届ける。
11月	高齢者疑似体験をしよう。	<ul style="list-style-type: none">・お年寄りになるとどうなるのか調べる。・重り付きベストや、関節が曲がらなくなるサポーターをつけ、いつものように体が動かせない大変さを実感する。・お年寄りに対して、自分ができていることを考え、生活に生かす。

(1) 長寿者訪問

毎年、敬老会の日に5年生が長寿者訪問をし、全校児童が書いた手紙とお菓子を届けている。お年寄りと一緒に楽しい時間を過ごすため、子どもたちは事前にいくつかの質問を用意した。

- | | |
|-----------------|---------------|
| ・好きなテレビ番組は何ですか。 | ・好きな食べ物は何ですか。 |
| ・長寿の秘訣を教えてください。 | ・趣味は何ですか。 |

当日は、用意してきた質問を中心に、お年寄りと一緒に会話を楽しむことができた。(写真①、資料①)

後日、お年寄りにお礼の寄せ書きを書き、お宅へ送り届けた。



写真① 長寿者訪問

(2) 高齢者疑似体験

長寿者訪問でお年寄りとふれ合った子どもたちは、お年寄りに関心を持つようになった。「年をとると、体はどうなるか。」という問いに対し、子どもたちは知っていることをたくさん挙げた。

- | | | |
|---------------|-------------|------------|
| ・耳が聞こえにくくなる。 | ・目が見えにくくなる。 | ・ひざが痛くなる。 |
| ・固いものがかめなくなる。 | ・体力がなくなる。 | ・病気になりやすい。 |
| ・骨が折れやすくなる。 | ・腰が曲がる。 | |

子どもたちがお年寄りのことをもっと知るために、高齢者疑似体験をすることになった。

福祉会館の中にあるボランティアセンターを通して、高齢者疑似体験グッズをお借りした。体験グッズには、重り付きベスト、関節の曲げ伸ばしがしにくくなるサポーター、視界が狭まり見にくくなる眼鏡などがあり、子どもたちは全てを身につけると「重い。」という声が上がった。(写真②)

子どもたちは、高齢者体験をする児童と介助する児童に分かれ、杖を持って学校内を歩いてみた。介助する児童は体験者にスピードを合わせ、ゆっくりと付き添うことができた。(写真③)

また、手の感覚が鈍くなるように軍手をつけ、関節に牛乳パックを巻き腕が曲がらないようにし、視界が狭くなる眼鏡をつけて、豆つかみ体験も行った。1分間にいくつの豆をつかむことができるか、楽しみながら活動することができた。何もつけない時と比べて、豆をつかむことがとても難しいことを子どもたちは実感した。(写真④)



写真②



写真③



写真④

9月18日、長谷さんさんの家に、長寿者ほうもんに行きました。家に行くとき歩いてきてくれたので、とても96さいにはみえませんでした。しかも、せんで、ソランぶしをひいてくれました。歌もつけてくれたので、ぼくたちは、ありがとうございました。楽しい時間は、すぐにすぎました。おなじ陣場な、またお会いします。

資料① 長寿者訪問後の感想

はくは十月十日五六時間目の総合の時間で、「高れい者体馬をしよう」という事で高れい者体馬をしました。豆つかみを最初にしました。手に重りとゴキウのパックをつけました。ゴキウもつけました。一分で六個つかめました。そして、体全体に重りをつけて歩いてみました。すごく重くて歩にくかったです。ちょっと時間がかかてしまいました。でも、すごく面白かったです。ぼくは、高れい者は大変なんかなあと思いました。高れい者体馬をして、ぼくはよかったです。高れい者体馬からは高れい者の荷物を持ってあげたい。

資料② 高齢者体験後の感想

3 実践を振り返って

高齢者体験でお年寄りの身体的なつらさを実感し、様々な思いを持った子どもたちである。(資料②)「大変な思いをしているお年寄りに対して、みんなができることは何だろう。」と問いかけると、「バスや電車内の優先席じゃないところでも、席を譲ってあげたい。」や、「お年寄りが重たそうな荷物を持っていたら、助けてあげたい。」などの意見が出た。2学期の総合学習での体験を通して、子どもたちが身近なお年寄りに対して、温かい気持ちを持つことができたと思います。